

神戸のことをわすれないで下さい。

中村たい長へ (全文)

神戸で大きな地しんがありました。
ぼくのおじいちゃんは、ぶじで神戸からだっ出しました。でも、ぼくのお母さんは、
「自分の親が、ぶじだからといって、ほかの人をほっておくことはできない。
お母さんが、そだった町だから。」と言って、このまえの土、日(1月21、22日)も神戸へボランティアへ行きました。きのうの土、日(1月28、29日)は、ぼくもスキーへ行きたかったけど、それいじょうに、お母さんと神戸へ行きたかったから、神戸へ行ってきました。
いろいろなものを見て、いろいろな人をみてきました。たて物は、テレビでいっているいじょうにもっとめっちゃくちゃです。
場所によっては、物もたりません。でも、みんながんばっています。とくに、子どもはがんばっています。甲東だい二小学校は 子どもも、教頭先生もすごくがんばっています。でも中には、〇〇小学校みたいに、先生も子どももぶすーとしてかじのわるいところもありました。ふくしセンターにひなんしている75才のおばあちゃんは、元気です。
「家、もえただけど、まけへん」と言ってました。神戸の大きいお兄ちゃん、お姉さんはもっとすごい。
「まけられへん」
「家もえても高校行きたい」
「大学行きたい」
と、うんどう場や、かいだんや、ふとんの上でもべんきょうしています。ドはくかに、びっくりしました。

大学じゅけんのお兄さんが、ぼくに、こんなことを言いました。

いつか、テレビも、新聞も、神戸のことを言わなくなります。
でも、どうか神戸のことをわすれないで下さい。ゆめの中でも、地しんののこと、かじのことでなやみます。
特に、お父さん、お母さん、または自分の子どもが「たすけて」と言っているのにたすけられず家ともえるのを見てるだけしか

できなかった人の心のきずはずっとなおりません。
でも、みんなその中からなんとか、がんばろうとしています。きみが、くるしい時、つらい時こそ、どうか神戸のことおもい出して下さい。どうか神戸のことをわすれないで下さい。

ぼくたちもなにかしませんか。
まず、柏木小学校の二年一組のみんなには、新聞を作って「手紙をかきませんか。みんなの心の友人になってあげませんか。」とうったえました。
ボーイスカウトもぼ金を、立ってあつめませんか。
なにかしませんか。
ぼくは、水口がだいすきです。ぼくが、そだっている町だから、もし水口が、神戸みたいになったら遠くにすんでても水口をたすげにかならずきます。
そのとき、ほかの人もたすけてくれたらやっぱりうれしいと思います。
ぼ金うんどうしませんか。
ボーイスカウトでするのなら、ぼくが、家のまわりであつめたぼ金のお金(一円や十円ばかりですが、ぜんぶで一万円ちょっとあります)もボーイスカウトであつめたぼ金とまぜたいと思います。
ぼ金うんどうをしませんか。

柏木小学校二年一組
カブ
こし川大すけ

この手紙は震災が起こってまもなく、ボーイスカウト甲賀第1団のカブスカウト隊長に届けられたものです。水口に住むこの少年にも震災は大きな影響を与えたのです。まずは少年の素直で正義感に溢れた思いに共感し、その思いを受け止め、そして、共に行動できる大人でありたいものです。

未曾有の災害に対して人々はいろんな方法で立ち上がりました。大きすぎるものを受けとめてしまった被災地の子ども達の心を思うと胸が痛みます。

水口町青少年育成町民会議「青少年育成だより」
平成7年3月31日発行より